

令和元年度第2回京都市政策評価委員会（令和2年3月13日開催）摘録

事務局 (仲筋課長)	<p>ただ今から令和元年度第2回京都市政策評価委員会を開催いたします。京都市役所の仲筋と申します。よろしくお願いいたします。それでは、開催に当たりまして、計画調整担当部長の平野の方から御挨拶申し上げます。</p>
事務局 (平野部長)	<p>計画調整担当部長の平野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は年度末の大変慌ただしい中、また新型コロナウイルス感染拡大終息の兆しが見えず、気持ちの落ち着かない中、御出席いただきありがとうございます。特に新型コロナウイルスに関しましては、数日内で京都市内での感染等が確認されており、非常に身近な問題となっております。皆様におかれましても、くれぐれも御自愛いただければと思います。</p> <p>さて、第1回委員会でも御説明いたしましたとおり、京都市では次期京都市基本計画の改定に着手をしており、その審議会の方も議論が進捗してきております。</p> <p>政策評価は基本計画の政策・施策を具体的な対象とするものですので、次期京都市基本計画審議会の進捗状況等につきましても、本日お時間をいただきまして御説明をさせていただければと思っております。</p> <p>今回の政策評価委員会におきましては、次期京都市基本計画に対応してどのような形で政策評価を進めていくか、具体的な内容について御議論いただきたいと考えております。</p> <p>第1回の評価委員会におきましても、色々な角度から活発に御意見、御指摘、御質問をいただきました。</p> <p>本日は、特に、「市民にとってより分かりやすいか、担当部署による政策の企画・立案に役立つか、持続可能で効率的な運用が可能か」といった観点から、皆様のお知恵をお借りし、改善につなげていきたいと考えております。</p> <p>ぜひとも忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>以後の議事につきましては、佐野委員長にお願いしたいと思います。</p>
佐野委員長	<p>議事に入る前に、お手元の資料のうち、参考資料の「よく分かる！京都市の政策評価制度」を御覧ください。この資料には、京都市の政策評</p>

価仕組みについて、簡単に説明が書かれています。1 ページ目に、政策・施策・事務事業の三角形のピラミッドがありますが、ピラミッドの上部の政策・施策が、政策評価の対象です。

27 項目の政策があり、その下に114 項目の施策があります。その次のページには、京都市基本計画に基づいてこの政策評価の仕組みができていているということが書かれています。

続いて、3 ページ目の評価の方法を御覧ください。左側の青い矢印と右側の赤い矢印があると思いますが、左側の青い矢印が客観指標評価です。政策や施策に関わる指標が約300 設定されていて、それによって政策や施策が目的を達成できているかどうかをチェックするものです。

右側の赤い矢印は、実際に京都市に住んでる人たちが、日々の暮らしの中でどういうふうに感じているかを市民生活実感調査でチェックするものです。

それぞれ a～e で評価をして、その2 つの評価を合わせたものとして、1 番下の総合評価が出てきます。

既に御存知の方もおられるかと思いますが、なかなか理解しにくい場合もありますので、全体像としてはこのような形ということ、あらためて確認いただければと思います。

それでは議事に沿って進めます。平野部長の御挨拶にもありましてとおり、京都市の基本計画が新しく変わります。それに合わせて、政策評価の仕組みも少し改定するという事も考えられるかと思いますが、次期京都市基本計画の検討の進捗状況について、事務局の方から説明いただきます。

事務局  
(仲筋課長)

－事務局から議題1「次期京都市基本計画審議会における検討状況」について説明(資料1)－

佐野委員長

次期京都市基本計画の内容については、現在、京都市基本計画審議会でも議論をしていて、最終的には京都市会に計画案を提案して、正式決定するという事でした。これが決定すると、それに基づき市民生活実感調査の質問文を改めたり、新たな政策・施策に基づき設定した客観指標が的確かチェックしたりすることになるかと思いますが、委員の方から何か御質問があればお願いします。

例えば、このような京都市基本計画審議会の議論には、政策評価結果や政策評価委員会での議論が活用されることはあるのでしょうか。

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>京都市基本計画審議会では、資料として政策評価結果を配布しておりますし、京都市基本計画の総括の際にも、目標達成に近づきつつあるということを、政策評価結果等を用いて説明しています。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>各審議会、各部局で議論がどうしても縦割りになりがちですが、政策評価委員会で議論していることが今後の検討に反映されていたり、活用されていたりということは良いことだと思います。</p> <p>続きまして、議題2「次期京都市基本計画における政策評価の方向性」の(1)「市民にとってより分かりやすい評価結果、評価結果の活用」に移ります。お手元に参考として「令和元年度 政策評価(評価票・客観指標基礎データ)」と書いております分厚い資料を配布しておりますが、このような600ページにわたる評価結果について、一般市民が読み解くことはなかなか難しいので、一般市民や京都市役所の中で使ってもらいやすい形にすべきではないかという方向性を前回の委員会で提示いたしました。具体的な方向性について、事務局の方で考えていただきましたので御説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題2「次期京都市基本計画における政策評価の方向性」の(1)「市民にとってより分かりやすい評価結果、評価結果の活用」について説明(資料2, 3-1, 3-2)－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>この変更によって実質的な評価の流れは変わりませんが、評価結果の見せ方が大きく変わります。見せ方が変わると事務局の方の負担が増すのではないかと心配しましたが、それほど負担は増さないということでした。事務局案につきましては、掛谷委員にも事前に御相談しておりますが、掛谷委員から何かございましたらお願いします。</p>
<p>掛谷委員</p>	<p>事務局と相談した際には、市民にとって見やすく、見ようと思ってもらえるようなものにしようという話をさせていただきました。ポイント版(資料3-2)のとおり、私からお伝えした意見も全て反映いただき、本当に分かりやすく作っていただきました。佐野委員長と同じく、見せ方を変えることで、京都市の担当者の負担にならないようにということは、私からも重ね重ね申し上げてきておりました。今御説明いただき、それほど負担は増さないということで安心しております。委員会の皆様で気になる点等について、是非御意見いただければ幸いです。</p>

佐野委員長	<p>ポイント版（資料３－２）を作成し、詳細はリスト形式にしてオープンデータで公開するということですが、リスト形式の方が見づらくて、分かりにくいということにはなりませんでしょうか。</p>
事務局	<p>見やすさを考慮していくつかのシートに分けて構築することを考えています。具体案については、現在検討を進めているところですが、実際に評価を行う各部局が作業をしやすく、市民も見やすくといったポイントを外さないよう注意したいと思っています。</p>
佐野委員長	<p>リスト形式のデータベースがどこにあるのか見つけられないということが一番困りますので、それらが見つけやすく、ポイント版（資料３－２）のそれぞれの項目がデータベースのどの数値と対応しているのか、一見して分かるようになれば良いと思います。</p> <p>現行の評価票（資料３－１）についてはあらゆる情報が載っており、隅から隅まで見れば政策の中身が何となく分かるものですので、このような様式が好きな方もおられるかもしれません。</p> <p>一方、今回は分かりやすいポイント版（資料３－２）と全ての情報が載っているリスト形式のデータベースに分けて作成することになっています。ポイント版は比較的簡単に手にとって見られるものとし、詳細を知りたい場合は、リスト形式のデータにアクセスしてくださいという形です。それぞれの様式に善し悪しはあると思いますが、前回の政策評価委員会の議論も踏まえまして、ポイント版とリスト形式に切り分けをしてはどうかというのが事務局案です。</p>
事務局	<p>来年度に各部局と新しい客観指標や市民生活実感調査の設問を作成していきますが、それらをポイント版（資料３－２）に落とし込んだ際に、不具合が出ないか、実務的な問題がないか等、１年をかけて確認していきたいと思っています。そのうえで、変更すべき点が出てきましたら、来年度の政策評価委員会で御相談させていただきます。</p>
佐野委員長	<p>既にある客観指標や市民生活実感調査の設問を基に、ポイント版（資料３－２）を一度作ってみて、どのような感じになるのかを確認するのも一つの方法かと思っています。評価票にどこまで情報を盛り込むかの判断はなかなか難しく、例えば、専門分野の方等は、現行の評価票（資料３－１）の「担当局」や「共管局」などの細かな項目も確認されると思いますが、できるだけ多くの人に見てもらおうという場合は、ポイント版（資料３－２）のような形で良いのかと思います。他に何か御意見はございますでしょうか。</p>

白井委員	<p>市民の方に見てもらいやすくするという趣旨は分かりますが、例えば、市民がこのポイント版（資料３－２）を見た後、次にどのようなアクションを起こすのかイメージができません。次のアクションにどのように繋がるようなものなののでしょうか。</p>
佐野委員長	<p>まず、政策評価制度の仕組みそのものの役割になると思いますが、市会や京都市民に対する説明責任があると思います。具体的に市民が次のアクションを起こすかどうかはともかくとして、少なくとも京都市が自分達はこれだけのことをやって、現状こうなっているという説明については、ポイント版（資料３－２）にすることで、今まで以上に分かりやすく伝えられると思います。</p> <p>ただ、ポイント版（資料３－２）を見た時に、例えば、京都市役所のこれまでの仕事ぶりでは、防災分野の取組が弱いと感じたときに、もう少し防災分野の取組を強化して欲しいということをどのように伝えられるのかということかと思っています。</p> <p>理想を言えば、市民の方がポイント版（資料３－２）を見て、例えば地元の市会議員に意見を投げかけたり、市役所に電話したりというようになればと思います。ただ少なくとも、連絡先や御意見をいただく様式を資料の後ろにつけるなど、市民がこれを見て意見や要望や質問などがある際には、それらを伝えられる仕組みはあった方が良くと思います。</p> <p>例えば、民間企業であれば株主総会で直接声を上げることが出来ますが、行政に対して一般市民にはそのような直接的な場がないので、メールや電話などで意見を伝えられる仕組みについて、既存のものでも良いのでどこかに掲載しておいても良いのではなでしょうか。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>評価票の「今後の方向性」や「総合評価」は、例えば、観光地で混雑が発生していることを踏まえて、市民生活との調和を図る方向に「観光」政策の舵を切るといった大きな方向性について記載しているものですので、抽象的な表現が多く、具体的な次のアクションについては想起しにくいものになっているかもしれません。</p> <p>一方で、リスト形式のデータベースを参照する際、例えば「環境」の政策であれば、より具体的な内容である生物多様性やごみ、エネルギーの取組を知ることが出来るような仕組みを考える必要もあると思っており、工夫させていただきたいと思っています。</p>

佐野委員長	<p>一般の市民がリスト形式のデータベースを見る理由は色々あると思います。例えば、子育てに興味がある人が、ポイント版の「子育て支援」を見て、もう少し詳しく知りたいと思った場合、リスト形式のデータベースを見ると、待機児童や保育園の数について示されていて、それを見て何かアクションが必要だとなるかもしれません。そのようなルートが繋がるようにしておくことは大事だと思います。他に御意見はございますでしょうか。</p>
中井副委員長	<p>ポイント版（資料３－２）の「政策の総合評価」について、現行案（資料３－１）の「総合評価」で書かれている部分と「今後の方向性」で書かれている部分をまとめて、１５０字で記載しきめることは難しいのではないかと思います。詳しくは、リスト形式のデータベースを参照とすることもできるかと思いますが、情報が抽象的になりすぎるようにも思いますので、もう少し文字数を増やしても良いのではないかと思います。</p> <p>あるいは、ポイント版（資料３－２）においては、「政策の総合評価」で評価を総括するとしておいて、個々の「今後の方向性」については別のページとしても良いのではないかと思います。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>参考に配布しております「基本計画実施状況（報告）」の冊子を御覧ください。この冊子は京都市基本計画の進捗状況をまとめたもので、毎年度市会に報告しております。冊子の１６８ページを御覧ください。「主な政策の評価結果等」という部分で、その年度に変動があった評価結果について、１５０字～２００字程度で評価結果と今後の方向性をまとめて記載しております。中井副委員長から御指摘いただきましたポイント版（資料３－２）の「政策の総合評価」については、この程度の内容を載せるイメージでおります。</p> <p>一方で、中井副委員長の御指摘のとおり、より細かい施策レベルの「今後の方向性」をどの程度載せていくのかという議論もありますので、リスト形式のデータベースに掲載するのか、もしくは、ポイント版（資料３－２）の「政策の総合評価」にどの程度掲載していくのか考える必要があると思います。</p>
白井委員	<p>紙の冊子では難しいかもしれませんが、インターネットやエクセルであれば、ハイパーリンクを活用してポイント版（資料３－２）とリスト形式のデータベースを繋げるかもしれません。</p>
佐野委員長	<p>その方向性が良いと思います。</p>

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>「今後の方向性」の表現については、何らかの媒体で残さなければ、抽象的になりすぎると思いますので、リスト形式のデータベースにおいてどのように表現するのか考えたいと思います。</p> <p>一方で「今後の方向性」が分野別計画に基づいて記載されている場合、一般的に分野別計画は5～10年間変わることがありませんので、「今後の方向性」の内容もほとんど変わらないこととなります。事務局で毎年度のチェックは行いつつも、無理のない程度に前年度評価票での記載内容を残していけるようにすれば、職員負担はそこまで増えないのではないかと思いますので、工夫させていただきます。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>担当課や担当局からすれば、「今後の方向性」を張り切って書きたいところではないかと思いますが、分野別計画等で既に決まっているものもあるかと思えます。詳細な「今後の方向性」については、場合によってはハイパーリンクで別のページ等に繋げるようなことも考えられるかと思えます。</p> <p>また、ポイント版(資料3-2)の「政策の総合評価」については一度、事務局案で少なめの文章量で作成してみた上で、文章量が少し足りない、もしくはもう少し詳細に書いた方が良いといった議論をしても良いかもしれません。次回の政策評価委員会の際で結構ですので、具体的な情報を入れ込んだ案を提示いただければと思います。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>市会には紙資料で報告することがほとんどですが、市民が一般的に目にするのが多いのはインターネットを介して見るデータ資料だと思いますので、そこはうまく切り分けて考えたいと思います。</p> <p>一方、京都市基本計画の下位計画に実施計画というものがあります。この実施計画には、現在307の事業が掲載されておりますが、その事業について、半年ごとに進捗状況をホームページで更新しておりますので、そういった状況も併せて確認できるよう、ホームページの様式等を考えていきたいと思えます。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>今までは政策評価結果から事務事業評価結果には繋がっていなかったのでしょうか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>事務事業の一覧については、施策評価票に掲載をしております。単年度予算制度ですので、事務事業評価については比較的毎年度の事業の入れ替えが激しいような状況となっております。</p>

<p>佐野委員長</p>	<p>一方、実施計画の事業については、継続的に状況を追えるようになっており、どちらがいいのかということになります。実施計画は5年間で計画期間として進捗確認することが目的となりますが、事務事業評価は事業の効率性を見るために毎年度予算の状況を見るのが目的となります。用途に分けたうえで、どれがふさわしい進捗管理手法か比較しながら提示する必要があると思います。</p> <p>いずれにせよ、リスト形式のデータベースを作成するのであれば、可能であれば、そこから関連がある内容に繋がるようにしておくと思います。例えば、学生さんが卒論を書く際に、もう少し詳しく調べたいと思った場合に、ハイパーリンクを張り付けること等により情報が繋がるようになっていると分かりやすいと思います。</p>
<p>深川委員</p>	<p>今回の改定のポイントは、まず読もうと思ってもらうことと、グラフ等を用いて直感的に分かりやすくすることだと思います。ポイント版（資料3-2）ではかなり改善されていると思いますが、より評価票を見る人が増えた、アクセス数が増えた等、変更による成果を把握する方法を何か考えておられますか。</p> <p>おそらくこれまでも、アクションを起こしたい市民団体等が政策評価を詳細に見るためホームページへアクセスしていたかと思います。一方、今回の変更については、政策評価を見ていただく方の裾野を広げていく、関心を持ってもらうということが目的だと思いますので、アクセス数等が把握できれば良いと思います。</p> <p>市民生活実感調査については回収率等で改善の成果が把握できていると思いますが、そのように把握できれば、次の展開に繋がっていくのではないのでしょうか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>ホームページのアクセス数は定期的に把握できますので、確認させていただきます。</p> <p>また、ホームページのアクセス数以外にも評価制度への関心を把握できるかと思います。評価結果は市議員にも参照いただいております。例えば、先日も市会の委員会で事務事業評価票を片手に御質問されている方がおられるなど、かなり政策形成に寄与しているのではないかと思います。また、市役所内でも、例えば景観政策の見直しの際に市民生活実感調査の経年変化を活用したという事例もあり、政策評価に関心を持っていただき、政策形成というアクションにつなげていただいております。</p>

<p>深川委員</p>	<p>これらについては定量的な把握は難しい部分もありますが、市会での議論や市役所内での政策形成等、事例も含めて委員会でお示しできるようにしたいと思います。</p> <p>定性的なものでも良いので、そういった声が集められると良いと思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ポイント版（資料３－２）であれば、見る人もいるのではないかと思います。60ページ程度ですし、冊子にして例えば図書館等で配架してみてもどうでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在政策評価結果を配架している区役所や府・総合資料館などに配架できないか相談してみたいと思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ポイント版（資料３－２）をせっかく見やすく改善しているので、この評価票自体にアクセスされなければもったいないように思います。大学のゼミ等、色々な場所で手にとってもらえるよう地道に宣伝していくしかありませんが、良い工夫があれば考えていただきたいと思います。</p>
<p>中井副委員長</p>	<p>政策評価結果についてポイント版を作るということですが、施策評価結果についてはポイント版は作らないということでしょうか。</p>
<p>事務局 （仲筋課長）</p>	<p>施策評価結果のポイント版は作成せず、リスト形式のデータベースを見やすくする形で対応させていただきたいと考えております。実務的には、毎年5月頃に客観指標データの各局照会と市民生活実感調査を行い、データベースを完成させた後、7、8月ぐらいにポイント版を作成して9月に公表することになりますが、27政策に加えて114施策のポイント版を短期間で作成することは難しいということが実情です。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>施策評価結果はリスト形式のデータベースを見やすくする形で対応していただければと思います。本来であれば、担当課で入力した内容がそのまま評価票に反映されるような仕組みがあれば良いと思いますが。</p>
<p>事務局 （仲筋課長）</p>	<p>例えば、事務事業評価においては、担当課で情報を入力すると評価票がPDFファイルで出力されるような作業支援システムが導入されていますが、政策評価でシステム開発にどこまでコストを掛けるのかという点は検討が必要です。</p>

	<p>また、次期京都市基本計画の計画期間は5年間となっており、5年後に政策、施策の体系が大きく変わる可能性もあります。事務事業評価のように、予算をかけて一旦システムを作ってしまうと、そういった変更に対応できなくなりますので、政策評価で今それをやるべきなのか、様子を見る必要があると思います。</p> <p>なお、ポイント版の作成にあたっては、客観指標と市民生活実感調査のデータを選択するなど、機械的ではない人為的な編集を行うことを想定しています。これを前提とすると、施策のポイント版を作成する場合も同様であり、自動的に各施策のシートが作成されるようにプログラムしておいた場合も、データベースにデータ入力した後に114のシートが作成されることとなりますので、それら全てについて人為的な編集作業を行う必要が生じます。</p> <p>一方で、人為的な編集作業を避け、あらかじめ扱うデータを決めておき、機械的に編集する方法もあります。この場合、これまで政策評価結果で実施してきたような「評価の変化に大きく寄与したデータを選ぶ」という編集方針は用いられません。いずれにしても、やり方を考える必要があります。</p> <p>データベース化されるとあまり選択しなくて良いようにはなると思っています。ポイント版（資料3-2）にまとめようとする部分もあるかと思いますが、リスト形式のデータベースがあれば情報を全部載せられると思います。システム開発となると大げさな話となりますが、全体的に見てその方が楽になるのであれば、考えていただければと思います。</p> <p>それでは、一度それで原案を作成いただき、来年度に具合を見ていければと思います。続きまして、議題2（2）「市民生活実感調査の改善」について、事務局の方から説明をお願いします。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>データベース化されるとあまり選択しなくて良いようにはなると思っています。ポイント版（資料3-2）にまとめようとする部分もあるかと思いますが、リスト形式のデータベースがあれば情報を全部載せられると思います。システム開発となると大げさな話となりますが、全体的に見てその方が楽になるのであれば、考えていただければと思います。</p> <p>それでは、一度それで原案を作成いただき、来年度に具合を見ていければと思います。続きまして、議題2（2）「市民生活実感調査の改善」について、事務局の方から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 （仲筋課長）</p>	<p>－事務局から議題2「次期京都市基本計画における政策評価の方向性」の（1）「市民生活実感調査の改善」について説明（資料4，5-1，5-2）－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>市民生活実感調査票そのものの見やすさ及びインターネットモニター調査等について説明いただきました。</p> <p>この点については事務局から深川委員に御相談いただいておりますので、深川委員から何かございましたらお願いします。</p>

<p>深川委員</p>	<p>市民生活実感調査の設問は100問近くありますので、設問数を変えずに回答しやすくするためには、回答者の達成欲求を満たすという点も重要だと思います。例えば、回答しやすい市政関心度や幸福実感の設問を最初に掲載することや、自分が全体のうち、どこまで回答しているのかわかるようにするということが改善点になるかと思いますが、改善案（資料5-2）はそれを反映した分かりやすいものにしていただいていると思います。</p> <p>今後さらに改善するとすれば、生活実感の設問の後半のページにキャラクターを掲載して、回答者が次のページを開いてくれるように仕向ける等、ゲーム感覚で最後まで回答してもらえそうな工夫等が重要かと思えます。</p> <p>なお、生活実感の65の設問について、現行の調査票（資料5-1）であれば、各項目の文章の左端が揃っており読みやすいので、改善案（資料5-2）もそのように揃えた方が良くはないでしょうか。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>各項目の文章の左端を揃えるという最後の御意見については、私も同意見ですが、設問の行数が増える可能性もありますので、見た目も含めて考えていただきたいと思えます。</p> <p>また、設問の途中でキャラクターが応援してくれるなどの工夫があれば、回答が楽しくなると思えます。いずれにせよ、今回の調査票案（資料5-2）自体は非常に分かりやすくなっているように思えます。</p> <p>なお、自由記述欄について、以前から罫線が入っていますが、書く側の立場からは、罫線が無い方が書きやすいと思えます。</p>
<p>白井委員</p>	<p>資料5-2の4ページについて、問8と問9では回答欄の幅に大きな差があるため、回答者からすれば○を付けにくいのではないのでしょうか。回答欄の幅の大きさが揃っていた方が、○を付けやすいと思えます。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>専門用語の注釈を設問項目内に入れていることによって回答欄が大きくなるものが出てしまいましたが、注釈を枠外に出すと、わざわざそこに視線を移さなければならない煩わしさがあります。</p>
<p>事務局</p>	<p>そもそも、注釈が必要になるような専門用語をなるべく使わない設問にしていくことも重要かと思えます。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>確かにそれが一番良い方法だと思います。ただ、例えば「ニート」という用語については、今はよく知られるようになりましたが、「MIC</p>

	<p>E」については良く知らない方も多いと思いますので、難しいところです。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>現在審議されている次期京都市基本計画の政策の体系においても、「スタートアップ・エコシステム」等の専門用語が使われているものもあり、どのように設問に落とし込んでいくのかは今後の課題となります。</p>
佐野委員長	<p>次期京都市基本計画の内容が固まった後に、様子を見ながら判断していくことになると思われます。他に御意見はございますでしょうか。</p>
掛谷委員	<p>調査票のうち生活実感の設問が65問と多く、回答者にとって負担感を感じるものとなっているのではと思います。先ほど指摘がありましたように、設問途中にキャラクターを入れる方法もあると思いますが、現行の調査票(資料5-1)では生活実感設問の左側に関連する政策分野が書かれています。このような区切りがあった方が、65問が連続で並ぶよりも良いのではないのでしょうか。</p>
中井副委員長	<p>設問の分類については、例えば、現行の京都市基本計画に記載されている「うるおい」、「すこやか」、「活性化」、「まちづくり」の4分野で分ければ、4分の1の見え方となります。このような、区切りがあった方が回答者は答えやすいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>御指摘のとおり、視覚的にどこかで区切りを入れた方が回答者にも分かりやすいかと思います。現行のように関連する政策分野で区切ったり、あるいは基本計画の4分野で区切ったりするなど、工夫してみたいと思います。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>改善案(資料5-2)の8、9ページの政策重要度については、「うるおい」、「すこやか」、「活性化」、「まちづくり」の4分野を意識して分けております。ただ、この分野名は、現行基本計画策定時の審議会の部会名ですので、カテゴリの名称については工夫をしたいと思います。</p>
深川委員	<p>調査票の印刷は2色刷りでしょうか。</p>
事務局	<p>調査票はA票とB票の2種類があり、A票は資料5-1や5-2のような黄色と黒色の2色刷り、B票はピンク色と黒色の2色刷りです。</p>

<p>深川委員</p>	<p>調査票をA票とB票の2種類に分けているのは、生活実感の設問が130問と多いため、65問ずつに分けて回答いただいています。また、黄色のA票とピンク色のB票に色分けしているのは、封入作業・取りまとめ作業の際に分かりやすくするためです。</p>
<p>事務局</p>	<p>2色以上使えるのであれば、「うるおい」、「すこやか」、「活性化」、「まちづくり」の4分野を色分けしても良いのではないのでしょうか。</p>
<p>深川委員</p>	<p>色を追加する場合、印刷費用が上がってしまう可能性がありますので、印刷業者等に一度相談させていただきたいと思います。また、色を追加しなくとも、例えば柄や模様によって分野を区別することも出来ると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>費用の問題があるのであれば、色を追加せず、「活性化」であれば元気なイメージのロゴマークを付けるなどといった分野の区別の仕方もあると思います。</p>
<p>深川委員</p>	<p>資料1の表紙に、「うるおい」、「すこやか」、「活性化」、「まちづくり」の4分野のイラストが掲載されています。これをそのまま使うという訳にはいかないと思いますが、参考になるかもしれません。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>このイラストでは政策の中身が分かりにくいかもしれません。</p>
<p>深川委員</p>	<p>もう少し抽象度が高くても良いのでSDGsのマークのようなロゴマークがあれば良いと思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>まとめますと、調査票の生活実感の設問について、もう少し見やすく分かりやすくなっているだけで意味はあると思いますので、工夫をお願いします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>ロゴマークについては、設問のカテゴリ内容をイメージできるようなロゴマークとした方が良いでしょう。それとも、単に設問カテゴリの違いが区別出来るものであれば良いでしょう。</p>
<p>深川委員</p>	<p>後者になります。極端に言えば「○」「☆」「△」でも良いでしょう。ロゴマーク等でカテゴリの内容を的確に示せるものがあるならば、それを使えば良いと思います。</p>

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>京都市においては、政策分野ごとにマスコットキャラクターもいますので、新しいイラストを作成するのではなく、既存のキャラクターも活かしつつ検討したいと思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>現行の調査票(資料5-1)の1ページ目では、「そう思う」～「そう思わない」の列を「選択肢」とくくって明示していたり、「質問」欄に「質問内容について、実感やイメージがわからない場合は空欄のままにしておいてください」といった細かな注意書きが記載されています。改善案(資料5-2)では、それがなくなってすっきりとはしましたが、なくなったことによる問題はありませんか。</p>
<p>深川委員</p>	<p>その点については、事務局と相談したところ、回答方法がわからないことによる誤答はそれほど多くはないということでしたので、記載をなくしています。</p>
<p>白井委員</p>	<p>市民生活実感調査は郵送後、どれくらいの期間で返送するものなのでしょうか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>調査票には回答期間を2週間と記載していますが、その後、御礼状兼督促状を調査票郵送者に送付して回答を促しており、実際の調査期間は1箇月で設定しています。</p>
<p>白井委員</p>	<p>回答者へのリマインドがあれば、回収率が上がりそうで良いように思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>インターネットモニター調査については、先ほど御説明いただいたとおりですので、今後の課題としておきたいと思います。今後、調査費用が大きく下がったり、インターネットモニター調査の普及度が高まってきたりした場合に、検討していければ良いのではと思います。 さて、続きまして議題3「その他」に移ります。事務局から何かございますでしょうか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題3「その他」について説明(資料6)－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>来年度、次期基本計画の政策の体系に基づいて新たな客観指標を設定していくこととなりますが、指標設定の際に用いている「客観指標の設定マニュアル」について御説明いただきました。</p>

	<p>このマニュアルについては、精緻に作られている分難しいため、事務局から担当部局に説明いただきながら客観指標を作っていくということになると思います。</p> <p>ロジックモデルそのものは一般化しつつあり、国の方でも行政評価にロジックモデルを使っていますし、市役所の職員研修などでもロジックモデルの考え方を教わったりする機会が増えていると思いますので、行政評価に関らない職員の方でも、ある程度分かるような状況になっていると思います。</p> <p>ただ、実際に担当部局において、自身の業務にロジックモデルを当てはめることは大変ですので、事務局と担当部局でやりとりしながら客観指標の設定を進めていかれるということです。</p> <p>ところで、客観指標は、最終的に政策評価委員会で決めることになるのでしょうか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>約400ある客観指標を全て議論することは困難ですので、基本的には事務局と担当部局で客観指標を設定し、その中からこれで良いか判断に迷うものをピックアップして提示させていただきたいと思っています。</p> <p>客観指標の設定の基準については、例えば環境分野であれば環境審議会等、分野別の審議会の決定に基づく客観指標が多く設定されていますので、それを準用した方が専門性のある指標となると思われませんが、そういうものに基づかない指標もありますので、ロジックモデル的かどうか、目標に合った指標かどうか等、政策評価委員会に提示させていただきたいと考えています。</p> <p>来年の3月時点で分野別計画を策定作業中であり指標がまだ決まっていない場合など、一部の客観指標について事務局預かりとさせていただく可能性もありますが、ほぼ揃っている客観指標の中から判断に迷うものを政策評価委員会で御審議いただくことになると思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>それぞれ委員としても関心のある分野もあると思いますので、可能であれば、全ての指標についても事前にメールで委員に送付し、委員会で発言するような形も取れればと思います。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>それでは客観指標については、事務局でピックアップしたものと、全ての指標の2段階で事前に皆様にお送りさせていただければと思います。</p>

佐野委員長	<p>分野別の各審議会では分野内の狭い範囲が対象となりますので、その審議会が使用している数値の範囲での客観指標の設定となってしまう可能性があります。例えば、環境という広い分野にも関わらず、設定される指標は細かな内容といったこともよくあると思われまので、そういった場合はもう少しマクロで見る指標を考えた方が良いかもしれません。少し手間はかかるかもしれませんが、できれば丁寧に見ていきたいと思っており、次年度の課題としたいと思えます。</p> <p>続きまして議題4「令和元年度政策評価制度に関する意見（案）について」です。政策評価委員会として毎年度このような意見を出す必要があります。原案を作ってくださいありがとうございますので、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>－事務局から議題4「令和元年度政策評価制度に関する意見について」説明（資料7）－</p>
佐野委員長	<p>本日皆様からいただいた御意見を含めて取りまとめさせていただき、最終的には事務局と私で相談させていただいて、完成させたいと思えます。</p> <p>ところで、市民生活実感調査の活用に関して、政策評価の対象となっていない「幸福実感」のような項目について、せっかく質問しているのに活用されていないように思います。生活実感に加えて、居住地や年齢、男女、そして「幸福実感」も聞いているので、例えば、こういう政策分野の生活実感が低い人は幸福実感が低い等の相関を見ることもできます。すぐに政策に活かせるというものではないかもしれませんが、このような話は政策評価委員会の所管となるのでしょうか。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>現行の基本計画の策定後、大学コンソーシアム京都と連携して、政策評価制度を政策立案に活かすシンクタンク事業を起こしています。毎年度実施している市民生活実感調査のデータは貴重で、例えば、観光や景観の分野では、分野別計画の進捗に市民生活実感調査結果を活用しています。それぞれの分野での活用については、各担当課で行うこととなりますが、活用の働きかけは我々の仕事であると思っています。</p> <p>現状としては、活用事例を事務局で集めて、さらに活用いただけそうな部署に働きかけを行っていく必要があると考えており、政策評価委員会からもこのように御意見をいただきましたので、「政策評価制度に関する意見」の周知の際や新しい客観指標の設定のやり取りの際等、時宜を捉えて、各局へ提案してまいりたいと思えます。</p>

<p>佐野委員長</p>	<p>幸福実感については、ブータン国王の来日を機に「幸福」という考え方がクローズアップされた際に導入されたものですが、「とても幸せだと思う」又は「どちらかという幸せだと思う」と回答した人の割合については、毎年度約75%辺りで推移しており、ほとんど経年変化がない状態です。どのように活用するのか難しいところではありますが、一度総括して、今後掲載し続けるかどうかも含め政策評価委員会で議論させていただく方が良いかと考えております。</p> <p>幸福実感について、データとしては面白いと思っています。すぐに実生活に活かせるわけではないと思いますが、例えば、仕事をしながら子育てをしている30代の女性は幸福実感が低いということが分かった場合には、それに対して支援をするという話に繋げやすいですし、そういう手がかりとなれば良いと思っています。このような視点について、各部局が自ら探して見つけてもらえるといいのですが、こちらから発信することもあり得るかと思います。</p> <p>また、市民生活実感調査の行政区ごとのデータも面白いので、各区の基本計画を作る際等に、区役所にその区の特徴について示してあげることも良いと思います。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>議題2(1)でお示ししておりますとおり、評価結果の活用として、今後オープンデータをさらに使いやすくすることも検討しておりますので、各部局に政策評価のオープンデータを周知するとともに、オープンデータがすぐにアクセスして使えるものだということを伝えていくことも重要かと思っています。</p>
<p>白井委員</p>	<p>市民生活実感調査の調査票についてですが、改善案(資料5-2)の生活実感の設問の3つ目に「マイバックやリサイクル製品など・・・」と記載がありますが、リサイクルはゴミの形を変えて再利用するものですので、適さないようにも思います。リデュース、リユースと記載すべきではないでしょうか。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>資料1の「みんなでめざす2025年の姿」と同様に、現行の基本計画に掲げる「みんなでめざす10年後の姿」から質問文が作られているのだらうと思います。このようなところを政策評価委員会としてもチェックしていくことになると思われま。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>現行の基本計画の環境分野における「10年後の姿」ではリユース、リサイクルという表現となっていますが、現行の京都市基本計画の10</p>

<p>佐野委員長</p>	<p>年間で、京都市としても3Rからリサイクルを除く2Rへ方向性が転換されています。</p> <p>一方、市民生活実感調査については、経年変化を見るために表現を変えてきておりません。新しく市民生活実感調査の設問を作成する来年度に、今回のような古い表現等をチェックして修正することになりますので、白井委員の御指摘の点については、おそらく次の設問作成の際に解消すると思います。</p> <p>計画期間が10年間の場合、市民生活実感調査の設問に記載している表現等も古くなってきますので、随時指摘していただく必要があると思います。次年度に客観指標や市民生活実感調査の設問を議論することになりますので、今回はこれでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これで今回の議事としては終了となります。司会進行を事務局にお返しします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>それでは、閉会にあたりまして平野企画調整担当部長から、一言、御挨拶を申し上げます。</p>
<p>平野部長</p>	<p>本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。活発な御議論をいただき、我々事務局で頭をひねっても思い至らないであろう参考となる斬新な御意見をいただきました。しっかり検討いたしまして、来年度の評価制度の改善に向けて取り組んでまいりたいと思います。</p> <p>来年度も引き続き、政策評価委員会を2回開催させていただく予定をしております。新しい京都市基本計画の下、評価票のレイアウトや市民生活実感調査票等を固めるとともに、客観指標についても御議論いただくこととなります。引き続き、御苦勞をおかけすることになると思いますが、御協力をよろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。</p>